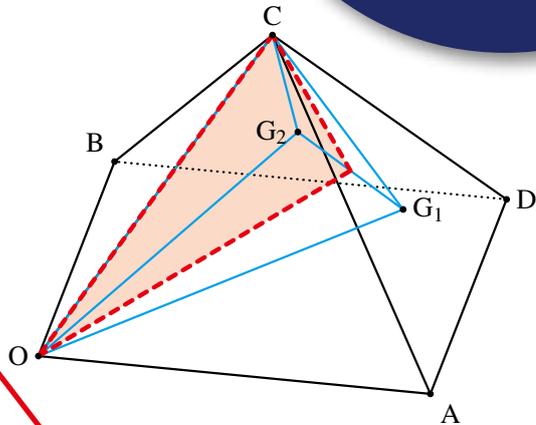
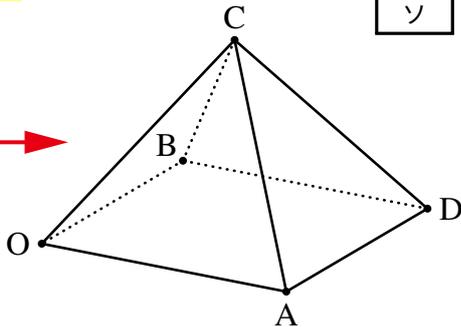


空間ベクトルに関する出題

4 (問題文は聞き取りによる再現)

図のような1辺の長さがすべて2である四角錐 $C-OADB$ がある. 三角形 CAD , CBD の重心をそれぞれ G_1 , G_2 とするとき, (中略) 四面体 OCG_1G_2 の

体積は四角錐 $C-OADB$ の体積の $\frac{\text{セ}}{\text{ソ}}$ 倍である.



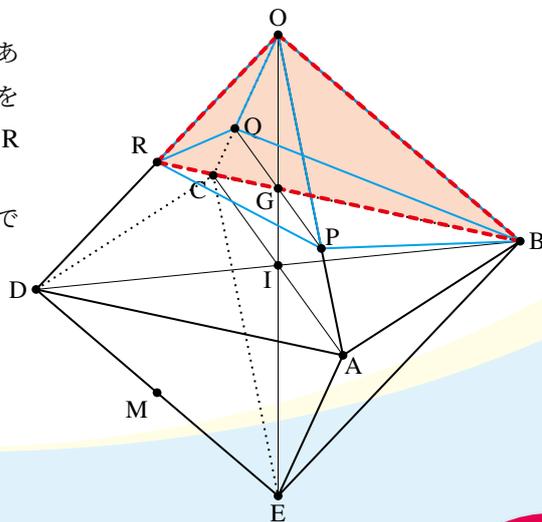
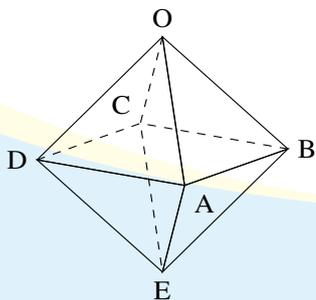
題材の立体がほぼ同じ!

体積を求める際に
「立体を2つの合同な立体に分割する」
というポイントが一致!
(図の赤い平面で2等分する)

【メビオ 金沢医科大学後期模試】

2025年2月19日実施

4 図のような, 1辺の長さが1の正八面体 $OABCDE$ がある. (中略) 線分 OA を2:1に内分する点を P , 線分 OC を2:1に内分する点を Q とし, 平面 BPQ と辺 OD の交点を R とするとき, (中略) 四角錐 $OBPRQ$ の体積は $\frac{\sqrt{\text{ね}}}{\text{のは}}$ で



コメント

金沢医科大学後期の入試本番で、空間ベクトルに関する問題が的中しました。入試で出題された図形は正八面体を二等分したものですが、メビオでは、入試直前に実施された「金沢医科大学後期模試」で正八面体に関する問題を扱っていました。この模試を受けたメビオ生は、正八面体の図形的特徴を押さえた上で入試に臨むことができました。さらに、最後の体積を求める際の考え方で一致しているため、大いにアドバンテージを得ることができたでしょう。

※試験問題、模試問題とも掲載用にレイアウトを多少変更しています

試験直前に
演習!